

## 大分県公共事業コスト構造改革に関する平成17年度実績について

県では、厳しい財政事情の下、限られた財源を有効に活用し、効率的な公共事業の執行を通じて、良質な社会資本の整備と事業効果の早期発現を目指し、平成13年度に「公共工事コスト縮減対策に関する新行動計画」を策定して、公共工事に関する様々な要素についてコスト縮減に取り組んでいます。

さらに、平成16年11月、公共事業の全てのプロセスをコストの観点から抜本的に見直す「公共事業コスト構造改革プログラム」を策定し、事業のスピードアップ、事業の最適化、調達最適化を図る中で、総合的なコスト縮減を推進しています。

こうした中、平成17年度のコスト縮減の取り組み実績について取りまとめましたのでお知らせします。

### 1 コスト縮減実績

#### 平成17年度コスト縮減実績

平成17年度 実績	縮減額（億円）	縮減率（％）
	55	6.2

注）コスト縮減実績は、国や都道府県が共通の考え方で算定作業を実施しており、平成14年度における標準的な公共工事と比較しています。

### 2 主な施策事例

従来の工事コストの縮減に加えて、計画・設計から管理までの各段階における最適化など下記の項目について取り組みを実施しました。

- （1）工事コスト縮減の実施事例
  - ダム貯水域内の漏水防止に新技術を活用（農林水産部）
  - 防波堤構造の見直し（農林水産部）
- （2）計画・設計における最適化の実施事例（工事コストの縮減）
  - 1.5車線の道路整備の導入による事業費の削減及び工期の短縮（土木建築部）
  - ダム遮水工事の工法合理化による施工性向上と工期の短縮（土木建築部）

（2）の施策は事業期間が数年に及ぶ事業を対象としており、このうち、平成17年度に実施した工事によるコスト縮減額を実績として計上しました。  
平成18年度以降も引き続き、コスト縮減効果が発現される見込み。

（問い合わせ先）

大分県公共工事コスト縮減対策協議会事務局  
土木建築部建設政策課 技術・情報システム班  
内線 4558

# 公共工事コスト削減対策に関する新行動指針」

【施策名 (1)工事コストの低減 技術開発の推進】

## 漏水防止にアスファルトベントナイトと繊維モルタル吹付採用

工事箇所 大谷ダム (熊本県高森町) の貯水域内  
概要

(従来)

フリーフレーム工

アスファルトと粘土を混合したアスファルトベントナイトを岩盤亀裂の大きい (幅 3cm 程度以上) 隙間へ充填、さらに繊維モルタルを吹き付け、漏水を防止するもの。

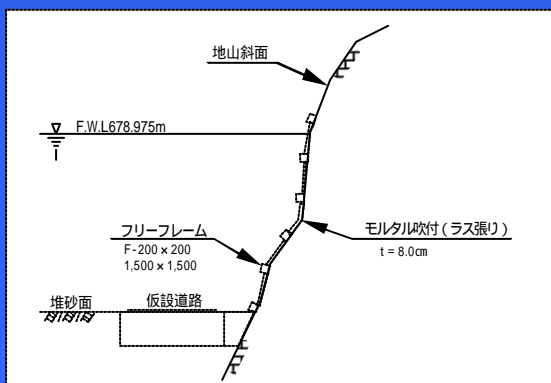
(新)

アスファルトベントナイト吹付 + 繊維モルタル吹付

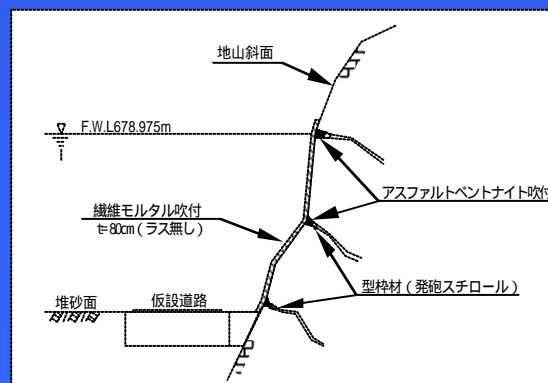
### 効果

長期的に止水効果が期待でき、より安定的な水の利用が可能となった。  
工程的にラス張りや法枠据付等が無く、工期短縮に寄与した。

断面図 (従来)



断面図 (新)



岩盤亀裂へのアスファルトベントナイト吹付施工状況



# 公共工事コスト削減対策に関する新行動指針」

施策名 (1)工事コストの低減

設計方法の見直し

## 防波堤構造の見直し

- 工事箇所 灘内漁港
- 概要

(従来)

地盤改良+ケーソン式

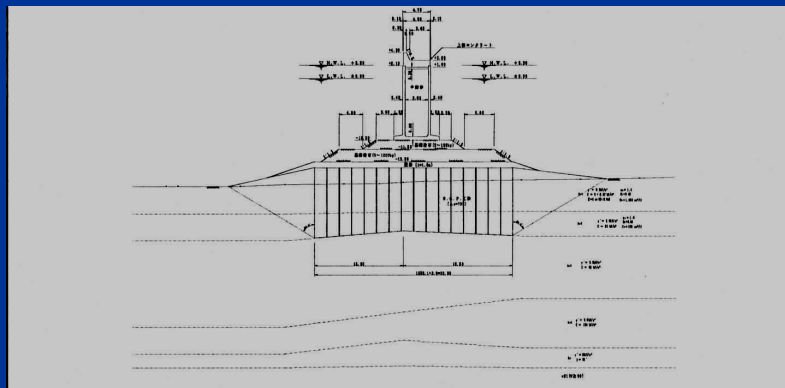
(新)

ジャケット式 (杭)

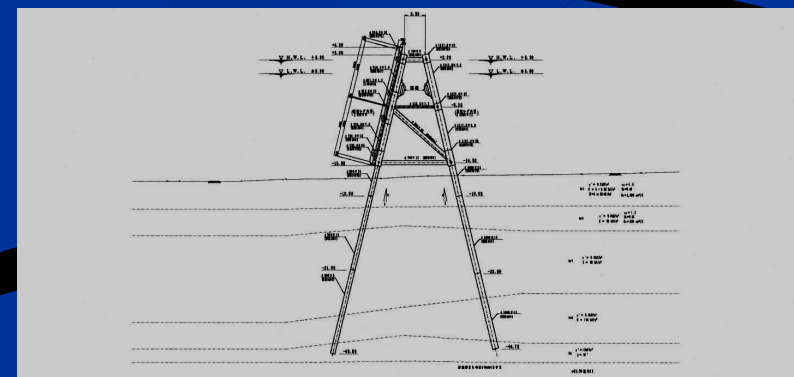
効果

水深が深く、軟弱な地盤上に設置する防波堤の工法にジャケット式を採用することにより、コスト削減が図られた。

断面図 (従来)



断面図 (新)



「公共事業コスト縮減対策に関する新行動指針」

【 施策名： (1) 工事コストの低減 1) 工事の計画・設計等の見直し 設計方法の見直し 】

## 地域の実情に応じた最適な道路整備の実施

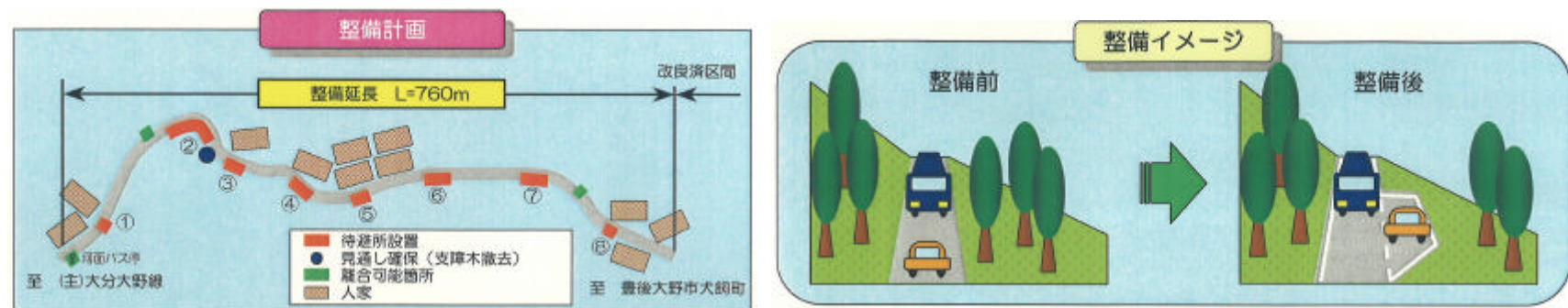
**工事名：**一般県道中土師犬飼線（中土師工区）道路改良工事

**概要：**本路線はバス路線であるものの、幅員は狭小で見通しの悪い区間が連続しており、通常の2車線改良での整備手法では整備コストが多大となることから、「1.5車線の道路整備」の手法を活用した道路整備を実施した。

**\*具体的な整備施策：**計画区間760mについて、2車線整備から待避所（8箇所）設置へ計画の見直しを行った。

**効果：**

道路整備のスピードアップ  
コストの大幅な削減



「公共事業コスト縮減対策に関する新行動指針」

【 施策名： (1) 工事コストの低減 1) 工事の計画・設計等の見直し 設計方法の見直し 】

## 工法の合理化による施工性向上と工期短縮

工事名：稲葉ダム 貯水地表面遮水工事

概要：(従来) 全面において土質ブランケット工のみ採用

(新) 斜面部 (コンクリートフェーシング工)

河床水平部 (CSG併用土質ブランケット工)

中段水平部 (アスファルトフェーシング工) に分けて工法を採用

### 効果

コア厚4.0 ~ 1.5 m、コア材328,000m<sup>3</sup>の膨大な施工量を軽減

斜面部と水平部の分離施工が可能になり、斜面部をコンクリート工に変更したことによる施工性の向上による工期の短縮

